

東京 2020 大会と日本体育大学

## 東京 2020 大会での活動について

杉 田 正 明（体育学部／コーチング系）

筆者は、東京オリンピック日本代表選手団の情報・科学担当の本部役員として、選手村に7月13日から8月9日までの計27日間滞在(活動)し、そのうち8月4日からは札幌の選手村に入り、競歩、マラソンの競技に帯同し、8日午後に晴海の選手村に帰村するという行程での活動であった。

日本代表選手団本部の構成は図の通りであり、情報・科学担当として様々な活動を行った。選手村日本選手団のある一室を選手団本部役員ミーティングルーム兼暑熱対策用の部屋として活用するかたちで活動を行った。主な活動内容は、①JSC との連携・情報共有、②暑熱対策サポート、③様々な情報収集と共有（含・札幌会場）であった。その活動の一部を紹介させていただくこととする。

暑熱対策サポートとしては、日本代表選手団宿泊棟（11号棟）付近でほぼ毎日、WBGTなどの気象計測を行い、ウエザーニュースから提供された予報情報と合わせて選手団のLINEグループに情報提供を行った。スポーツ庁委託事業・独立行政法人日本スポーツ振興センター再委託事業として受託した「屋外競技における暑熱対策の総合的研究開発」（代表者：杉田正明）によって4年間かけて開発した「発汗成分を基にしたスペシャルドリンク（粉末）（安静用、運動時各1320袋）」を選手村に常備するとともに、同委託事業で開発した手のひら、首、頭の冷却装着物及び市販のアイスベストなども準備し、暑熱対策支援活動を行った。選手村入村直後にある競技のスタッフから選手村で常備していた冷却装着物などの提供を

要望され、手と首冷却装着物、ドリンク粉末などの詳細を説明し、手渡したところ、競技終了後に暑熱対策としてかなり役立ったと報告を受けたが、その競技では金メダルを複数獲得する成績を残してくれた。酷暑環境で実施された東京大会では、選手村内での暑熱対策支援は重要な機能の一つであったといえる。こうした開発品などは大会期間中に計17の競技で活用された。

選手村内の他国の棟を訪問し、調査したところ、各国が様々な取り組みを行っていた。オーストラリアは、選手村外にサポート拠点を設置する計画を立てていたが、今回はCovid-19の影響を避けるため、村内にサポート機能をもたせ、地下にRecovery Hubとして、アイスバス10台、アイススラリーマシン、トレーニングジムとして、フリーウエイト、LATマシン、自転車エルゴメータ、ローイングマシンなど（1度に15人まで利用可）を設置していた。さらに、食材を持込み、食事提供サポートを充実させていた。

ブラジルは選手村とは朝潮運河をはさんだ向かい側の至近距離にある豊海小学校に村外拠点（ハイパフォーマンストレーニングセンター）を設置しており（スタッフ約40名）、トレーニングジム、バレーボールコートなどを設置し、食事は、全期間で25000食を準備していた。その他、心理カウンセラー、フィジカルトレーナーなどのスタッフが常駐し、自動式アイスバス2つ（選手村1）、ランドリー3台を設置していた。その他、アメリカ、ニュージーランド、イギリス、オランダは、自棟の地下や1階ベランダなどに様々なトレーニ

ング機器やアイスバスなどリカバリーのための道具を設置していた。以上のように選手村内、村外に各国がサポート体制を充実させ、選手が競技に集中できる快適な環境づくりを行っていたことを把握することができた。今やオリンピック期間中に選手村、選手村外において医科学・情報サポート体制の構築なくして成果を収めることは難しいことを改めて感じさせられ、今後の大会ではこうした各国の取り組みは益々より充実したものとなることが予想される。

コロナ禍の中でのオリンピック開催であったが、Covid-19感染者は選手、役員ともに日本は0（全体547名（選手28名、選手団関係者147名））であり、徹底した感染対策と自己管理の賜物であるといえる。選手は、誠実にクリーンかつフェアな姿勢で競技に臨み（問題事案は無）、会見等では大会開催、様々なサポートに対する感謝の言葉が多くみられ、大会の成功とスポーツの価値向上

を後押ししてくれたことは大変喜ばしいことであった。

これまでトップアスリートの科学サポートに関する活動を31年間にわたり行ってきた。その中で自国開催のオリンピックで本部役員の任を務められたことは大変光栄なことであったが、コロナ禍、バブル下ということもあり、大会が始まる前から相当な重圧を抱えながらの緊張感溢れる毎日を過ごすこととなり、大会が全て終了し帰宅時には体重が3kg以上減少していた。Team JAPANの一員として、かけがえのない貴重な経験をさせていただいたことに心から感謝し、この素晴らしい体験を今後の教育、研究および社会貢献活動に活かしていきたいと思う。

本活動を遂行するに当たり、本学教職員の皆様をはじめ、様々な組織、団体や関係者の方々にお世話になりました。この場をお借りして深く感謝申し上げます。

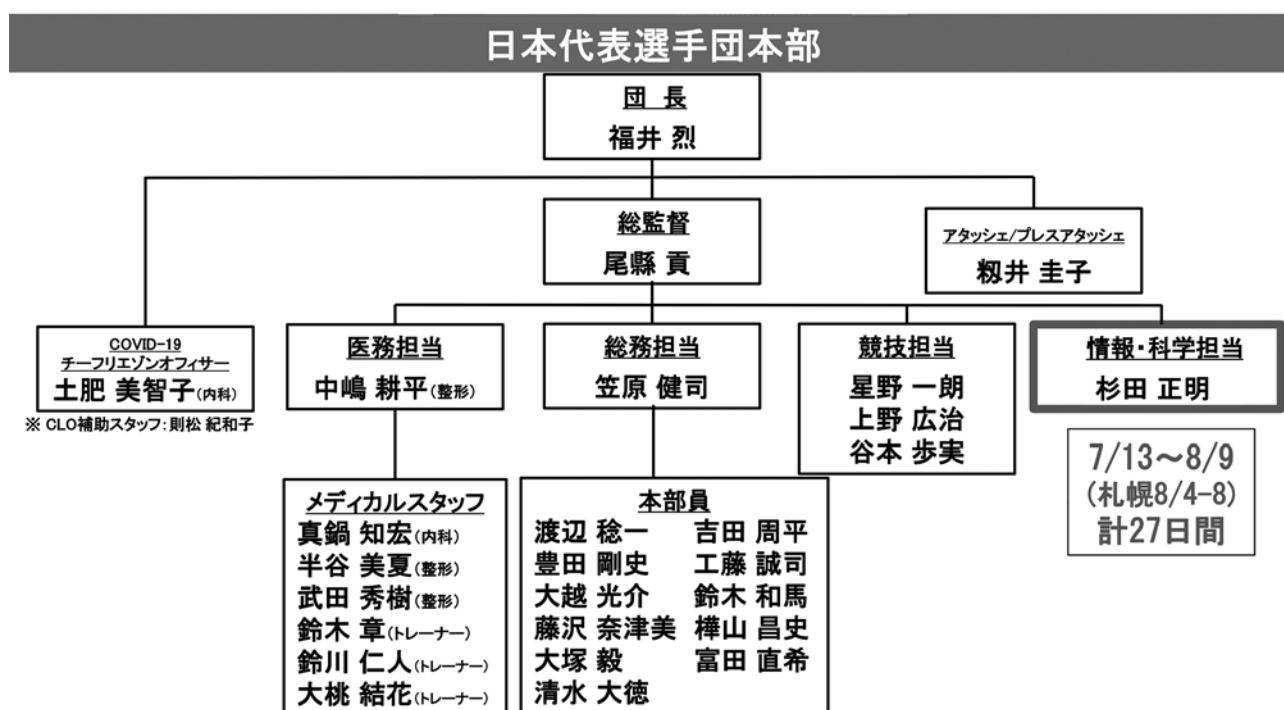


図 東京オリンピックにおける日本代表選手団本部の構成



写真 閉会式前の選手の皆さんとの交流の様子

(受理日：2022 年 4 月 8 日)